

彩菜栽

2015年
11月

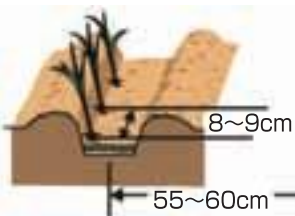
タマネギの植え付けと 作業のポイント



9月に種まきしたタマネギは、苗が大きくなった10月下旬から11月が植えどきです。

タマネギは真冬に入るまでに十分に根を張らせ、春になったらすぐに勢い良く育つようにすることが大切です。そのためには元肥を適切に施し、特にリン酸成分を欠かさず（火山灰土壌で多めに）与えておくことが大切です。根の性質が特異

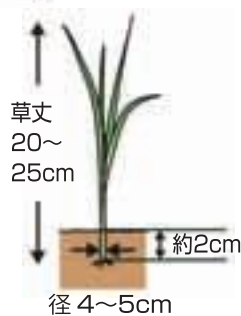
的で、通気性の良さを好まず、乾燥を嫌うので、元肥に堆肥は与えず、植え付けた後に株元を鎮圧しておくことが大切です。また、油かす、魚かすなどを与えるとタネバエが発生することがあるので、これらは与えないようにします。



溝に元肥を施し、少し覆土して植える



株元を強く踏みつけておく



これ以上の大苗に仕上げて植える



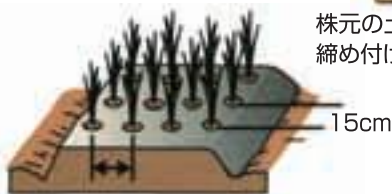
穴開き黒色ポリフィルム



深植えしないように



株元の土を指先で締め付けておく



15cm 穴に苗を挿し込む

化成肥料、溶成リン肥（または過石）などを施して土を掛け、並べて苗を植える。列植えと、肥料をベツト全面に耕し込んで穴開き黒色ポリフィルム

乾燥を防いで生育を促し、肥料の流亡を減らし雑草を抑止する効果があります。ただし植えつけた鎮圧には手間がかかります。両方の得失をよく考えて選択してください。

植え付けの深さは図のように根の上に土が2cmほど掛かるようにしましょう。緑の部分に土が掛かるのは深すぎた後の育ちが良くありません。

を敷き、その穴に苗を挿し植える。マルチベツト植えがあります。列植えは植え付け作業が早く、苗の姿勢がそろいやすく、踏み付け鎮圧がしやすく、また生育後期に列間に後作（例えばインゲンマメ、ラッカセイ、シウガなど）を植え付けることができる利点があります。

マルチベツト植えは、地温を高め、乾燥を防いで生育を促し、肥料の流亡を減らし雑草を抑止する効果があります。ただし植えつけた鎮圧には手間がかかります。両方の得失をよく考えて選択してください。

植え付けの深さは図のように根の上に土が2cmほど掛かるようにしましょう。緑の部分に土が掛かるのは深すぎた後の育ちが良くありません。

植え付け後に畑が乾き過ぎるようなら、2〜3回ほど株元に灌水すると活着が早まります。

植え付けの深さは図のように根の上に土が2cmほど掛かるようにしましょう。緑の部分に土が掛かるのは深すぎた後の育ちが良くありません。

植え付け後に畑が乾き過ぎるようなら、2〜3回ほど株元に灌水すると活着が早まります。